

大阪・吉井遺跡^{よしい}

- 1 所在地 大阪府岸和田市吉井町三丁目
- 2 調査期間 一九九九年(平11)九月～二〇〇〇年三月
- 3 発掘機関 大阪府教育委員会
- 4 調査担当者 上林史郎
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代後期(一世紀)～鎌倉時代(一二世紀)
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(岸和田)

本調査は、府営吉井住宅建設に伴うものである。調査対象地は、岸和田市の北西部、泉北郡忠岡町との市町界付近、南海本線忠岡駅から東南へ約六〇〇mの住宅地内に位置する。

調査区は、A調査区(二二〇m)、B調査区(六〇〇m)、試掘調査区(一一二五トレンチ・二五〇m)にわかれ、調査面積の合計は約四〇〇〇m²である。A・B調査区で検出された主要な

遺構は、弥生時代後期から鎌倉時代にかけての掘立柱建物・ピット・井戸・溝・土坑・大溝などで、二面以上の遺構面が検出されている。中でも掘立柱建物は、平安時代中頃と鎌倉時代中頃の二時期に分けられ、上面が二間×三間の建物であるのに対して、下面では三間×四間の総柱建物であり、重量物などを納めた倉庫と考えられる。

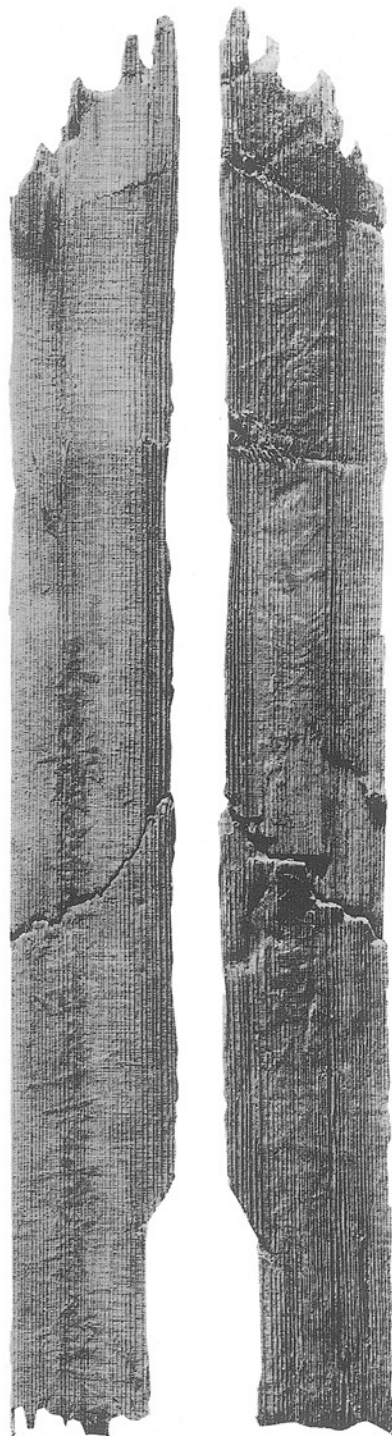
B調査区では、東西方向に伸びる古墳時代後期から奈良時代中頃にかけての大溝が検出されている。この大溝は全掘はしていないが、長さ五〇m以上、幅一五m以上、深さ二・二m以上をはかる大規模なものである。

今回報告する木簡は、試掘調査区の一六トレンチから出土したものである。このトレンチは、上述した東西方向の大溝の内部に含まれる。大溝の堆積は、上から暗灰色粘質土(〇・二五～〇・四m)、黒色粘質シルト(〇・一m)、黒灰色粘質シルト(〇・五五m)となり、地山は灰色砂礫土である。木簡は、暗灰色粘質土内の中程から出土したが、暗灰色粘質土は、大溝が機能を停止した後に堆積した埋土と考えられる。この大溝からまとまって出土した須恵器や土師器の年代観からは、大溝が古墳時代後期頃に掘削されたが、奈良時代頃に機能を停止し、徐々に埋没していった過程を窺うことができる。

8 木簡の釈文・内容



(赤外線画像)



(斜光写真)